

第二期 倫理部会 第13回会合 議事メモ

日時:2021年3月13日 13:30～

手法:ZOOM

○宿題について

A氏(政治家)、B氏(政治家)、C氏(若者)、D氏(消費者)、E氏(全体)について発表があったが、範囲が広いため、各層ごとの議論が必要ということで、今回は政治家に特化して議論することにした。

また初参加のF氏から、アンテナの高い人にはいいが、一般の人には伝え方の工夫が必要、との意見があった。

○A氏の提案

1. 人として共通の倫理6項目について

(提案部分)

- ・有限の認識：地球環境は有限であり、これまでの人間活動の拡大により、今後の活動の環境上の余地は限界に達しつつあることの認識
- ・抑制する知恵：何事も無限の拡大・成長はあり得ないことを自覚し、ほどほどに自制する知恵
- ・共存する覚悟：人は孤立しては生きられず、様々な生き物とも共にこの星で調和して生きていく覚悟
- ・利他の心：自己利益だけの追求は、結局は人に幸福や利益をもたらさないという先人の教えを尊重する心
- ・事実の尊重：確証された事実可依拠し、意図的に捏造されたフェイクを拒否する力の尊重
- ・循環の術：不要物の再利用や自然への還元を可能にする工夫やシステムを創り出す術

(意見)

- ・循環の「術」といういい方は馴染まないのではないか。利他の心は最も人間の本性がぶつかるところだが、社会の仕組みとしては必要。だから様々なインセンティブを与えようとしているのでは →なかなか難しいことは理解するが、だからこそ必要なのでは
- ・循環のすべには物理的なことしか書かれていないが、命の循環ということもイメージできる書き方がいい
- ・狭い空間で日本は生きていかざるを得ない。それが社会の状況。しかし現在は外に負荷を押しやることができる。上の4つは閉鎖空間に必要な事だが、社会の状況により異なるのでは
- ・意識では有限を理解しているが、経済はグローバル化せざるを得ず、それによるリスクも発生している。そのあたりをどう描き分けるか
- ・悲惨な状況になって気づくが、そうなる前に、そうならないように立ち振る舞うための知恵であり、倫理である

- ・学びという項目もあっていいのではないか
 - 学び手段であり、手段と目的は分けて考えた方がいいのでは
 - そういう意味では循環も方法論か？
 - ・事実の尊重、事実はどこかの視点で見る、視点が変われば事実も異なる。事実の尊重と共存する覚悟は矛盾するのではないか
- ◎いずれにしても、この部分は、「危機の時代の環境倫理」を考える上でベースとなるのではないか

2. 【前提・背景】の部分について

(提案部分)

- ・現在日本では、期日前投票の制度をはじめ、かなり投票し易い環境が整いつつあるにもかかわらず、国政選挙においては概ね5割前後、地方選挙は概ね3割前後の低投票率にあり、議会制民主主義の基盤が危うくなっている。
- ・低投票率の理由は、政党からの選択肢の貧弱さ、政治そのものへの不信、病気、極度の貧困等による参加意欲の喪失など様々に考えられるが、政治の結果はすべての人に及ぶ。

(意見)

- ・政治の役割の低下が問題。しかしグローバルな経済下・競争下では選択肢がない
 - ・政治とは違う所で大切なことが決まってくる（ダボス会議のような）
 - ・政治と経済が近すぎるのが問題。政治は経済に従わなければならないのが今の世界
 - ・議会制民主主義の在り方が問われている
 - ・何か民主的な手続きで政治家を決めざるを得ない状況の中で、いろいろと問題はあるが、現状は日本はまだまし？
 - ・憲法では「正当に選ばれた…によって、政治を行う」とある
 - ・民意によって選ばれているというより、自分たちの利益の為に選び選ばれているというのが現実では
 - ・そもそも国民も政治に関して基本的なことを知らない。そこが問題なので、システムの中に盛り込んでほしい
- ◎政治の役割と選ぶ側の国民の役割をしっかりと書き込むことが必要
- ・若い人は諦めているし、一票の意味を知らない
 - ・政治ビジネス、政治家はうそをつくもの

次回までの宿題

- ・どのようにすれば、政治家や選挙民が変われるかについて、『「環境危機」時代をリードする政治に携わる人に求められる環境倫理（心構え、心得）」』の視点から、A氏案に対する意見を出す

(参考：A氏案)

「環境危機」時代をリードする政治に携わる人に求められる環境倫理（心構え、心得）－
未定稿

1. 人として共通の倫理 6 項目

有限の認識：地球環境は有限であり、これまでの人間活動の拡大により、今後の活動の環境上の余地は限界に達しつつあることの認識

抑制する知恵：何事も無限の拡大・成長はあり得ないことを自覚し、ほどほどに自制する知恵

共存する覚悟：人は孤立しては生きられず、様々な生き物とも共にこの星で調和して生きていく覚悟

利他の心：自己利益だけの追求は、結局は人に幸福や利益をもたらさないという先人の教えを尊重する心

事実の尊重：確証された事実に依拠し、意図的に捏造されたフェイクを拒否する力の尊重

循環の術：不要物の再利用や自然への還元を可能にする工夫やシステムを創り出す術

2. 今日の「政治」の環境政策上の使命

(1) 国政：国民の生命・財産を護ることは大前提として、

- ① 国の向かうべき方向を、常に国民とともに検討し、その時々結論を国民に責任を持って明示し続けること
- ② 法律案、予算案などの形成を通してあるべき政策を議論し、選択し、決定し、将来世代を含む国民に対しその結果責任を負うこと
- ③ 国の安全・治安を守り、国の名誉と尊厳を護持すること
- ④ 世界の中の一員、しかも先進国の一員としての役割と責任を自覚し、世界の平和、安全、発展等を確保するため、ある程度の国益を離れても主体的かつ積極的に参画し、時にはリードすること
- ⑤ 世界の国々と友好関係を維持するよう、常に配慮すること

(2) 地方政治：県民、市民の生命・財産を護ること、行政を監督することは大前提として、

- ① 管轄する地域（県、市町村など）の課題は何か、その解決のために向かうべき方向を、常に多くの地域民と共に話し合い、検討し、その時々結論を地域民と行政に明示し続けること。
- ② 条例案、予算案などの形成を通して、課題の具体的な解決案を行政とともに検討し、採択するとともに、その結果責任を負うこと。

3. 政治に携わる人に要求される倫理

以下に示すカテゴリーに属する人は、いずれも1の「人として共通の倫理」を体得していることは前提の上で、次の倫理項目を追加的に保持すべきと考える。

(1) 国政に携わる人

- 環境危機の実態とその原因等についての情報を官僚からだけでなく、専門家、NPO、企業等から幅広く収集し、分析すること。
- 中長期の未来における危険性について洞察し、必要な対策を提示すること。
- 解決の先送り（逃げ）は決してしない、させない旨、常日頃表明していること。
- 出来る限り多くの国や国際機関と協力（共同）して人類社会の持続性確保に尽力する覚悟を常日頃表明していること。

(2) 地方政治に携わる人

管轄する地方に焦点を当てている以外は、(1)の国政に携わる人の場合に準じる。

(3) 選挙人（有権者）

【前提・背景】

- ・ 現在日本では、期日前投票の制度をはじめ、かなり投票し易い環境が整いつつあるにもかかわらず、国政選挙においては概ね5割前後、地方選挙は概ね3割前後の低投票率にあり、議会制民主主義の基盤が危うくなっている。
- ・ 低投票率の理由は、政党からの選択肢の貧弱さ、政治そのものへの不信、病気、極度の貧困等による参加意欲の喪失など様々に考えられるが、政治の結果はすべての人に及ぶ。

【倫理】

- 他人事ではなく、自分事として、一般人にとって唯一の政治参加機会である投票には必ず行き、たとえ白票であれ、意思を表明する権利であるとともに、民主政治を守る義務があることを認識すること。
- 国や地域の課題に関心を持ち、家族、友人、仕事仲間、NPO等の市民団体とそれらについて話し合い、勉強し合う環境をつくったり、参加したりして、有権者としての責務を果たす心構えを持つこと。
- 選挙の主要課題に対して関心を持ち、それなりの勉強もして、他人事ではなく自分事として、原則必ず投票すること。

(4) 政策の形成及び執行に携わる公務員

- 公正、公平を旨とし、常に適切な解決策を探求すること。
 - 従来の審議会等による政策形成方式以外にも活用し、幅広く意見を聴取することに努めること。
- 多様な人脈、多様な価値に常日頃接するように努めること。